

はばたき21通信

NO.11
2006.3

わたしが選んだ暮らしスタイル

あなたは誰と暮らしたいですか？

いろんな世代

いろんな暮らし



同世代との暮らし。
血縁とは違うつながりの「共生型」の暮らし。
形にとらわれない暮らし。
多様な暮らしを区民の編集委員が
訪ねてきました。



PHOTO BY KINOSHITA



今、日本は少子高齢社会をむかえています。介護や少子による将来の不安ばかりが取り上げられがちですが、少子高齢社会だからこそ、工夫した暮らしやすい生活を選んで考えている人たちがいます。

いろんな世代 いろんな暮らし

「同じ世代で一緒に暮らせる安心感、話題も共通するものが多く、自分の家と想っています」シルバ―世代の方々が集合して共同生活をしているケアハウス松が谷に住む遠藤恵さんは言う。

ケアハウス松が谷は台東区が設置した高齢者が安心して生活を送れるよう配慮された施設だ。60歳以上で、日常生活に支障はないが高齢等のために独立して暮らすには不安がある方を対象に住宅を提供している。2人での入居も可能



遠藤さんと川島さん

で夫婦、親子、兄弟姉妹でも入居できる。バランスの取れた食事の提供や緊急時の対応等もしてくれる。入居者の意思が尊重され、茶話会やクラブ活動も活発に行われ、日常生活動作の低下予防として快適運動などを取り入れている。

前述の遠藤さんはもともとサラリーマンの夫と青山に住んでいた。夫の病氣治療のために、友人が勤めている台東区の病院に入院。平成元年から病院そばの根岸のマンションに移り住んだが、夫がたびたび階段から落ちることもあって転居を考えていた。ちょうどその時、区民報でケアハウス松が谷が開設されることを知り、平成8年のオープンから夫婦で入居

ケアハウス松が谷1階エントランス

同じ世代で暮らす安心感 話題も共通で楽しい

遠藤恵さん 川島芳男さん 川島フサノさん
70代～80代

ケアハウス松が谷

した。その後、夫は亡くなり、1人部屋に移った。

「3人の娘は、結婚しておりませんが、2人は海外におり、孫もひ孫も大勢で、よく遊びにも来てくれます。現在アメリカにいた娘の仕事の関係で月1回は来ます」

同じくケアハウス松が谷に住む川島さんご夫婦。夫の芳男さんは建設会社の社員としてダム・トンネルなどの建設に永年携わった。

「定年後、住まいを品川から外房に移したのですが、5年ばかりは、顧問として会社でまだ仕事をしていました。それから3人の息子も結婚して独立しましたので、空気のいいところで10数年過ごし生活をエンジョイしましたよ」と芳男さん。今から8年前、生まれ故郷の浅草に戻ったが、妻フサノさんの家事負担を考慮して、平成14年にケアハウス松が谷に入居した。

「食事の時はなんとなく席が決まっています。気の合う同士で食事をし、余暇活動として、外食会、お花見、足立のしょうぶ沼公園にハイキング、映画会などの企画や俳句の会など趣味の会もいろいろあって仲のいいお友達ができ、本当に楽しいです」と笑顔のフサノさん。現代の課題ともいえる一人暮らし高齢者の孤独とは対照的だ。

「食事の支度をしなくていいし、重い食材などの買い物をしなくて本当に助かります。色々な方ともコミュニケーションがとれ寂しい

思いをしませんし。それから寮母さんがとても優しく親切です。毎月1回茶話会がありますが、『悪いことや、気が付かないことがあれば、いつでもおっしゃって下さい』と寮母さんがたえず言われ、すぐ改善して下さるので悪い所などありません。本当に楽しくすごしています」

ただ介護職員(寮母)は夜間常駐ではなく、緊急の対応は警備員が行う。健康な高齢者が集まっているとはいえ、看護師が常駐する施設になればという期待もある。

「夫がなくなった後、ケアハウスの友人と旅行に行くようになりましたが、その後大病を患い手術をしましたので、今は旅行には行けません。死ぬ時まで自分のことは自分でできる状態で、元気に生活していきたい。ここを最終の棲家にしたい」と語る遠藤さん。

「現役中はたえず現場に単身赴任していましたので、定年後ようやく夫婦で旅行することができるようになりました。寝たきりにならず、人に迷惑をかけずに暮らしたい」夫よりも年が若いので、できることなら夫を見送るまで、元気になりたい。そのために健康を心がけ、運動や散歩を2人でしています」と芳男さんとフサノさんは言う。

みなさん思いは同じようで、話の中からケアハウスでの生活に安心とやすらぎを持っていることが強く感じられた。



川島さんご夫婦



「私は、5年前から『事実婚』をしています。婚姻届を出す『法律婚』という形を選んでいません」と語る彼女は、見た目も優しい穏やかな女性だ。

2年前から、夫と共に寺町に暮らす。表札には、2人の名前が並んで掲げられている。時間が合えば、2人で近隣の散歩を楽しむことが多く、生活の中で、困ったことと言えば、自宅電話を受けるのに、どっち宛にかかってくる電話かわからないので「はい、〇〇です」とは答えられずに「もしも」と受けることが多い、という共働き夫婦の姿である。

「夫も私も事実婚を最も良い形だと思っている訳ではないのです。法律婚をすることで、公に2人の結婚を公表して心のけじめをつけたいとは思っているのですが、今の『法律婚』に踏み切れないので、このままの形でいくことになったんです」

今の法律婚を選んだ場合、自分の名字を90%以上の女性が改姓している。

「結婚しよう、と言った時に、じゃあ名前はどつしよう、となつて、俺が変えてもいいよ、と言っていたのですが、その時になって躊躇し、生活を始めてから最近、変えたくないと言っています。もし、婚姻届を出すとなれば、私の名字を変えざるを得ない。そうだった時に、自分のアイデンティティ、『私は誰か』と自問すると、自分の一部として、自分の名前が出てくるんですね」

何十年と使ってきた、私の一部となつている名前を自分が望んでいないのに、半強制的に変えなければならぬのは疑問なのです。イヤだ、というよりなぜ？という感じですね」

「自分の名字がとっても好きとか、強くこだわっている訳ではないのですが、自分の名前を変える、その『よいしょ』ってところが、私にはできないんですね」

親兄弟や親しい友人以外には、名字を変えていない、と言ってな

「夫も私も事実婚を最も良い形だと思っている訳ではないのです。法律婚をすることで、公に2人の結婚を公表して心のけじめをつけたいとは思っているのですが、今の『法律婚』に踏み切れないので、このままの形でいくことになったんです」

今の法律婚を選んだ場合、自分の名字を90%以上の女性が改姓している。

「結婚しよう、と言った時に、じゃあ名前はどつしよう、となつて、俺が変えてもいいよ、と言っていたのですが、その時になって躊躇し、生活を始めてから最近、変えたくないと言っています。もし、婚姻届を出すとなれば、私の名字を変えざるを得ない。そうだった時に、自分のアイデンティティ、『私は誰か』と自問すると、自分の一部として、自分の名前が出てくるんですね」

何十年と使ってきた、私の一部となつている名前を自分が望んでいないのに、半強制的に変えなければならぬのは疑問なのです。イヤだ、というよりなぜ？という感じですね」

「自分の名字がとっても好きとか、強くこだわっている訳ではないのですが、自分の名前を変える、その『よいしょ』ってところが、私にはできないんですね」

親兄弟や親しい友人以外には、名字を変えていない、と言ってな



イラスト 佐々木恵美

生き方は一通りではない

樹 優子さん(仮名) 40代

事実婚

暮らしの点数「80点」

高橋 ゆき子さん(仮名) 40代

大人3人で子育て



イラスト 佐々木恵美

夕方5時のチャイムが聞こえる
とほとほと、勢いよく「ただいまー！」と元気な男の子の声が玄関に響く。5時のチャイムが鳴っ

たら、すぐに家に帰ること」母と息子との大切な約束だ。7年前の離婚当時、赤ん坊だった息子は、小学校3年生になり、野球に夢中の毎日を送っている。

高橋さんは離婚を機に、生まれ育った台東区で、彼女の両親と息子の4人で一緒に暮らし始め、現在はフルタイムの仕事を持っている。安心して毎日仕事に行けるのも、両親が家にいてくれるからこそであり、息子との時間、仕事、自分の時間、とうまくバランスを取れている暮らしを心地よく感じている。肩肘張らずに、任せられるところは両親の力を借りて、大人3人で子育てしている毎日だ。

家族全員で食卓を囲むことが少なくなつたと言われているが、高橋さんの食卓は、息子を中心に会話が弾む。「食事は、朝食・夕食とも、4人で一緒に食べています。会話も多くコミュニケーションは十分取れていると思います。ただ、野球が好きな息子のキャッチボールの相手をしてあげられないのが、残念なんです。もっとも、最近では友達との遊びの方が楽しいみたいで……」

子どもが傷つけられる事件が多発するのを耳にするたびに感じる不安、両親の健康に対する不安……言い出したらきりが無いが、どんな暮らし方をしているにも不安を感じるものだし、直面した問題に対処しながら、息子の成長を見守り

たいと考えている。

今の暮らしに点数をつけてもらったところ、「80点」という答えだった。残りの20点については、「もしかしらば、家族の中で一番自由になっているのは自分かもしれないので、その分がマイナス20点」と、笑顔で語る高橋さん。

さらに「高橋さんにとって家族とは？」という問いを向けると、「家族がいるから頑張れる、自分にとって支えとなる存在」と即答してくれた。

この「4人での暮らし」があるからこそ、高橋さんが自分らしく輝いていられるのだろう。趣味は、若い頃から続けているゴルフで、3ヶ月に一度の近所の仲間とのゴルフコンペが楽しみたいという。これからも、それぞれが互いに支え合いながら、自分らしくいられる暮らしを大切にしていきたい、という思いが伝わってきた。終始一貫して、自然体な雰囲気がとても印象的だった。



sh.

住民同士の交流、コミュニティの運営について聞いてみた。「コミュニティは誰かが整備するものではないと思うんですね。行政が支援するということもあると思いますが、与えられたものだけじゃだめだ、その地域で街づくりを一緒に考えよう、自分たちでつくってみよう、ということだと思っんです」と、住民が主体であることを強調する。

それでは実際の交流はどんな感じなのだろうか。「賃貸というところで人の入れ替わりもあるんですよ。だけど企画から関わってきた人も住んでいますね。自分たちがつくってゆくということが大事なことかも知れませんが、共に暮らす、ということですね」

「特にコモンダイニング(共用ダイニング)、一緒に食べる場があるということとはコミュニケーションにとって大切なポイントだと思っんです。食べたい人は予約して、その日の材料費、450円くらいの夕食費ですが食材は豊かですよ。月に一回くらい料理当番が回ってくるんですが、男も女も関係なく一緒に料理を作るんですね。」

コモンミール(共同の食事)のない日でも、なんとなく住民がお酒を持ち寄りたりお鍋が余ったからといって料理を持ってきたり、わいわいやっている日もあるんです。「赤ちゃんが寝ないのよ」なんて



右 コモンリビング・ダイニング・図書コーナーに集まって懇談
上 コモンダイニングは時には勉強の場に変身
右下〈菜園テラス〉時に収穫物はコモンミールに登場



編集委員 コラム

楽しい コミュニティカフェ



公共施設の会議室でカフェが開かれている、と言うと皆さん、えっ!と思われるでしょう。

ここ台東区生涯学習センター4階の男女平等推進プラザ会議室のひとつで、毎月どなたでも大歓迎のカフェが開かれています。

というのは、男女平等推進プラザのコーディネーター、瀬山紀子さんとプラザ運営委員の有志が、区民の皆さんに、喜んでもらえるプラザにするために、色々な方たちから意見をきける場所としてカ

フェを開くことを考えました。

サポーターの人たちの応援をえり始めたのですが、結果は大成功。中学生から80過ぎの方まで、中国、韓国の人たちやタイの方など国際色も豊かに、雑談のなから、面白い話、楽しい話が聞け、素晴らしいひとりが過ごせます。

私もこのコミュニティカフェの虜になった一人です。お時間があつたら、是非参加をおすすめします。

開催は主に第3土曜日・費用は無料

言いながら子どもを抱っこしてコモンダイニングにやってくるお母さんにとっては息抜きの場になるし、そういう感じで自然と住民が集まってくるんですね」と、楽しい雰囲気は伝わってくる。

ルールはどう決めるのか、意思決定はどうなのだろうか。「それは役割ごとにいろいろなグループがあつて住民の一人ひとりはこのグループに必ず参加する決まりです。」

コモンミールのプランニンググループもそうですが、お掃除や備品のグループ、インテリア、共用スペースに置かれた洗濯コーナーの使い方を決めるランドリーグループもあるし、ガーデニングやバー、日常生活を記録するグループ

もあります。

他にもエコ、リサイクル、ペット、図書などがあつて、大事な問題や課題は月に一回の定例会で話し合っています。日常の連絡は掲示板やメールが活躍します」と、ルールも住民が主体になって自ら決めていくようである。

「将来はこういう住まいがいくつもできると本当に素晴らしいと思います。しかし、土地はどうするの、建設費はどうするのか、などお金がたくさんかかることで、すからそう簡単にはできません。ただ次の実現のためにNPOの活動は続いて、新たな研究プロジェクトも始まっています。」

将来は人の交流がハウスを超えて地域に広がり、コレクティブハ



NPO法人コレクティブハウジング社の渡辺喜代美さん

ウスも集合住宅の中だけの交流から地域との交流にまで広がって、街としてのコレクティブタウンに発展させたいですね」と未来を語って下さった、とても明るい笑顔が印象的だった。

赤ちゃんから高齢者まで

NPO法人コレクティブハウジング社
前理事長代行 渡辺喜代美さん

世代を超えて 多世帯と共に暮らす

「コレクティブハウス かんかん森」がそれである。かんかん森の企画から実現・運営まで携わった、NPOコレクティブハウジング社の前理事長代行で、東京都防災・建築まちづくりセンターでも活躍されている渡辺喜代美さんにお話を伺った。

「戦後になって顕著になった、東京の人口増加に対応するために、住宅の大量供給、そしてその前提は、社会の核家族化に伴って、核家族が暮らすための住宅の供給に携わ

ってきました。しかし核家族を前提とした住宅の大量供給には足りない要素があつたと思っんです。都市化がどんどん進んでいくと、人と人が分断されてしまふ。その影響で、女性だったら子育ての負担が増えるとか、自分が高齢期になったときの不安とかの問題が見え始めてきたんです」と当時の悩みを語る。

問題解決に向けて実際に動き出したのは、NPO(特定非営利活動法人)の法律がその頃成立したことも大きかった。「それじゃあNPOを立ち上げてコレクティブハウスという新しい形の住宅をつくってみようということになりました」そして当時の悩みを解決するひとつの答えがかんかん森の計画として具体化されたのである。

「高齢者も含めた複合的な施設を日暮里につくるという企画があつて、そこにコレクティブハウジングも含めてつくれないだろうかという話が運良く繋がって、今の日暮里コミュニティの中にかんかん森ができたんですね」

「かんかん森では世代を超えた多世帯が同居することで多様な人間関係が育まれます。例えば赤ちゃんが生まれると、かんかん森の住人になって皆で赤ちゃんを可愛がったりとか、赤ちゃんを抱いてみることで自分も潤ったりとか、かんかん森に行くのが感動しますよ」と笑顔で話す。

はばたき21相談室

はばたき21相談室では無料で、女性専門カウンセラーによる「**こころと生きかた**なんでも相談」と女性弁護士による「**法律相談**」を行っています。

相談予約電話

03(5246)5819

予約受付 午前 9 時～午後 5 時
(月曜・年末年始を除く)

相談は 1 回50分です。
プライバシーは大切に守られています。

* 法律相談の予約受付は当該月の 1 日(休館日にあたる場合その翌日)からです。

電話相談



面接相談



**こころと生きかた
なんでも相談**

自分の生き方や人間関係、家族や子育てのこと、また配偶者等から暴力を受けていることなどの相談に女性カウンセラーが応じます。

火曜・土曜 午前10時～午後 4 時
水曜・木曜 午後 5 時～午後 9 時

面接相談(火曜・土曜)を受ける方でお子さん(1歳～6歳)の保育が必要な方は、無料で一時保育をご利用できます。

面接相談



**女性弁護士による
法律相談**

離婚や親権、相続などの法律相談に女性弁護士が応じます。対象は女性です。

第2水曜日 午後 1 時～4 時
第3木曜日 午前10時～午後 1 時
第4火曜日 午後 4 時～7 時

* 日程の変更もありますので電話でご確認ください。

地図



「はばたき21通信」についてのご意見ご感想を、FAX、はがき、Eメール、「はばたき21」台東区男女平等推進プラザにある意見箱等までお寄せください。お待ちしております。
はばたき21通信は郵便局、NTT、駅、区役所、区民事務所、図書館、区内公共施設、都内女性センターなどで配布しております。

「はばたき21」 台東区立男女平等推進プラザ

所在地 〒111-8621

東京都台東区西浅草3-25-16
生涯学習センター4階

交通機関 地下鉄日比谷線「入谷」駅から徒歩 8 分・JR山手線・京浜東北線「鶯谷駅」から徒歩15分・つくばエクスプレス「浅草駅」から徒歩 5 分都バス足立梅田町～浅草寿町、亀有駅～上野公園 上記 2 ルートの「入谷 2 丁目」下車徒歩 1 分

開館時間 午前 9 時～午後10時

休館日 月曜日(祝日にあたる場合は翌日)
年末年始

電話 03(5246)5816

ファックス 03(5246)5814

編集委員 榎本・大河内・須賀・東田・藤本

イラスト 佐々木恵美

メールアドレス: habataki21@taitocity.net

ホームページアドレス: <http://www.taitocity.net/habataki21>